

| 領域 | 科目名 | 単位 | 時間数 | 対象学年 | 開講時期 | 担当講師 |
|---|---|----|-----|------|------|----------|
| 専門分野 I | 観察技術論演習 | 1 | 30 | 1 年次 | 5 月 | 竹内佐代子 |
| 授業概要 | | | | | | |
| <p>フィジカルアセスメントについて理解し、系統的観察および適切にフィジカルイグザミネーションを実施、身体測定の方法について学習する。また、観察したことを伝達できるための意義と方法について学習する。</p> | | | | | | |
| 科目目標 | | | | | | |
| <p>フィジカルアセスメントの方法を理解し、バイタルサイン測定、身体計測などを行い、観察ができる。呼吸・循環・体温を整えるための技術を安全・安楽に実践できるための基礎的知識と技術を学ぶ。看護における記録・報告の意義と方法について理解できる。</p> | | | | | | |
| 使用教材 | | | | | | |
| <p>テキスト：①系統看護学講座 基礎看護技術 I：医学書院 ②横山 美樹：著 はじめてのフィジカルアセスメント：メヂカルフレンド社 参考文献等：山内 豊明：著 フィジカルアセスメント ガイドブック：医学書院 DVD (山内豊明教授のフィジカルアセスメント シリーズ)</p> | | | | | | |
| 評価 | | | | | | |
| 筆記試験 | | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | |
| 時間・回数 | 授業内容 | | | | | 方法 |
| 6 時間・3 回 | 1. 看護における観察とは 2. フィジカルアセスメントの意義 3. 観察方法（視診・触診・打診・聴診）とその意味 4. 身体各部の測定（身長・体重・胸囲・腹囲） 5. バイタルサインとは 6. 体温・脈拍・呼吸数・意識のメカニズム 7. 体温・血圧測定方法 | | | | | 講義 実技 |
| 4 時間・2 回 | 8. 呼吸器のアセスメント 【呼吸器系のフィジカルイグザミネーション】 | | | | | 講義 実技 |
| 6 時間・3 回 | 9. 循環器のアセスメント 10. 循環器家のフィジカルイグザミネーション | | | | | 講義 実技 |
| 4 時間・2 回 | 11. 消化機能のアセスメント 12. 消化器系のフィジカルイグザミネーション | | | | | 講義 |
| 2 時間・1 回 | 13. 運動機能のアセスメント | | | | | 講義 |
| 2 時間・1 回 | 14. 感覚機能のアセスメント | | | | | 講義 |
| 2 時間・1 回 | 15. 高次脳機能のアセスメント | | | | | 講義 |
| 3 時間・2 回 | 16. アセスメントの伝達 1)看護における報告の意義と方法 2)記録の目的と必要性、種類 3)記録物の管理と取り扱いとその重要性 4)看護記録の要素・種類・記載上の留意点 | | | | | 講義 |
| 1 時間・1 回 | 筆記試験 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |
| <p>○解剖生理学の知識を踏まえながら講義をすすめる ○日常生活援助技術実習、問題解決技術実習で実践できる能力を養う</p> | | | | | | |